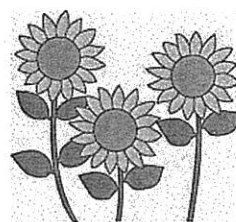


小島地区ふれあいセンターだより



令和8年8月 第434号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



8月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

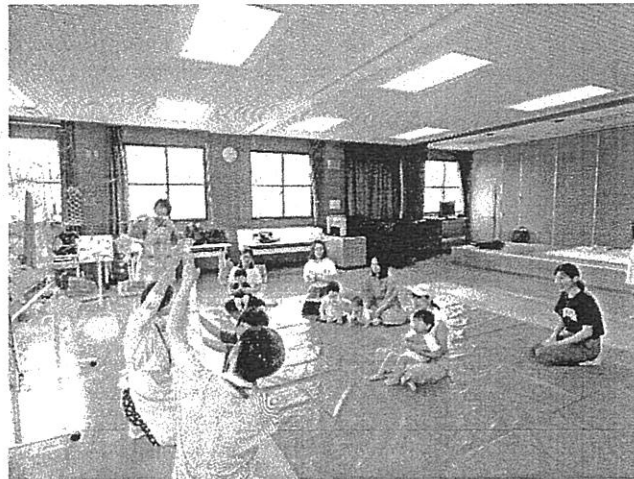
開催日	行事名	
4日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
	小島地区ふれあいセンターまつり第1回実行委員会	午前11時～12時
5日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
7日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
12日(水)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
19日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
22日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～12時

小島地区「子育て教室」の七夕飾りづくり

7月3日(金)に、長崎市子育てサポート課、小島地区民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会小島支部・上小島支部・愛宕支部の主催による小島地区「子育て教室」が開催されました。この日の取り組みは、「七夕まつり」でした。

子供達は、お母さんに手伝ってもらい、七夕の笹飾りの短冊に「家族みんなが、毎日にこにこ元気に過ごせますように」「家族みんな健康で毎日楽しく過ごせますように」「大きくなりますように」などの願い事を書いて飾り、楽しいひと時を過ごしました。

出来上がった七夕飾りは「小島地区ふれあいセンター」1階ロビーに飾りました。



「小倉百人一首」を読み解く 竹方其

ちゅうなごんかねすけ ふじわらかねすけ
二十七番歌(中納言兼輔・藤原兼輔)

みかの原わきて流るる泉川いつ見きてとか恋しかるらむ

〔語訳〕

みかの原から湧き出て、原を二分するように流れる泉川ではないが、いったいいつ逢ったと言ってこんなに恋しいのか(一度も逢ったことがないのに)

〔留意点〕

・藤原定家は、この歌の詠み手の名は「藤原兼輔」ではなく、官名を冠した「中納言兼輔」としています。個人名ではなく官名を付している場合は、職業上の立場から詠んでいることを再認識してもらいたい。

・初句の「みかの原」は「甕原」で聖武天皇の御代に甕原に恭仁京という都が置かれていたところ。そこで「わきて流るる」ということは水ではなく、何らかの政治上の動きがあり、それが政治的な分岐、分裂を引き起こしたともとれる。つまり、聖武天皇の恭仁京で生まれた新しい政治の流れを意味したと考えられる。恭仁京が置かれたのは天平13年(七四一)から天平16年(七四四)で兼輔は中納言になったのは延長5年(九二七)であるから二百年近くも前の時代です。ですから「いつ見きてか」は、まだ見たこともない場所としてすっきりと意味が通ります。

・聖武天皇の御代は、天智天皇の「大化の改新」が継続して行われている時代、さまざまな改革が進められていた。またこの時代は奥州の反乱、天変地異が相次ぎ、皇太子が亡くなる、宮中に隕石が落ちるなどの凶事が起こっている。

聖武天皇はこのような不孝をとり除くために、遠くインドやベトナムから高僧を呼び仏教による鎮護国家へと傾斜したにも

かわらず、大宰府による疱瘡の流行、都でも疫病が流行し、朝廷の高官がつぎつぎと亡くなっていた。そんな中であつて、ますます仏教への信心を強くし天平12年(七四〇)には奈良に大仏を建立する発願も行った。

また、中国から渡来した景教(ネストリウス派のキリスト教)に光明皇后は帰依し、施薬院という無料の医療所を建立した。また班田収授法により口分田不足をおぎなうため、「墾田永年私財法」を定めて、土地の私有を認める制度改革を実施した。また仏教においては国営仏教を民衆に仏教を広めていた行基と和解して、仏教が民衆に信仰される道を開いた。このような二百年間の国の姿の変化を知識として備えた兼輔が「恋しい」と詠んだのは「天平の世」のことである。「恋」とあるのは男女間の恋愛ととらえるのは早計、「恋しかるらむ」は必ずしも人(女性)ばかりを指してはいないのである。

歌の意味は「聖武天皇の御代から、我が国は新しい時代に入つてまいりました。仏教が全国に広まり、私有田の所有により民が豊かになり、仏教の信仰も自由になり、いつせいに仏教文化が花開き、文化の興隆へとつながっていく」。私は当時を見たことはありませんが、天平文化の興つたその時代を恋しく思うのです。このような解釈をして真の意味での兼輔の歌となるのではなからうか。兼輔もそうだ私の言いたいことを令和の人間が読み取ってくれたと喜んでいいことだろう。兼輔が生きた時代も、真の意味で解釈されていたのであるが、いつのまにか変に解釈されてしまったようである。



○アジサイの花

・シーボルトが新種だと思い祖国に報告したものです。学名はオタクサ。妻のお滝さんに因んで付けています。〜お滝さん花

○グラウンド

この広場は、石切り場の跡地です。手作業で切り取った跡としては、かなり広いです。

○龍馬通り

・この通りは写真撮りの名所となっています。

・龍馬の胸像(山村和国、二つ目の龍馬像) 2010年1月作成。風頭山の像と同じ作者

・新大工町から乗合タクシーでの利用者が増えています。ここまで300円程度

○亀山焼(窯跡) 文化4年(1807)に始まる。

・オランダ船等の水がめを作成していたといわれます。(「亀山」の由来)
・粘土は天草から陶土を舟送していた。龍馬が住んだ頃には廃窯となっています。

・右側の平公民館、ここが窯跡です。駐車場の扉を開けると中に窯の内側が残っています。この窯は「登り窯」で公民館の下方が焚口で煙突は龍馬の胸像付近です。

・斜面道は、前面が開けており、諏訪神社の正面が見渡せ、左手に本蓮寺、福濟寺、聖福寺、右手に長崎街道(新大工)を直下に見ることが出来ます。

○若宮(勤皇)稲荷神社

・創建は延宝元年(1673)出来大工町乙名 若杉喜三太が自宅に祀る、南北朝時代の忠臣・楠木正成公の守護神(稲荷大神)若宮稲荷五社大明神を伊良林に移し、社殿創建したもの。別名勤皇稲荷、亀山社中をはじめ勤皇の志士が参っていた事によります。

・竹ン芸(市指定無形民俗文化財)

豊作祈願のお祭り、中国から伝わるといわれている。10月14・15日おくんち

・三つ目の龍馬像〜風頭の像の原型 顔が一回り若いと感じる像
台座が低く、像が小さいのでシャメ撮りには最高です。

「小倉百人一首」を読み解く 竹方其

二十八番歌(源 宗于朝臣)

みなものむねゆきあそん

山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば

〔語訳〕

私がいるのは寂しい山里だ、冬はとりわけ寂しく感じられる。人の訪れもない、こんなところにいたら草木も私も枯れてしまう。

〔留意点〕

・作者名にわざわざ「朝臣」と肩書を付した。「朝臣」は「八色の姓」で定められた位で、上から二番目で、ひとことでは言え、たいへん位の高い方です。権力欲が強かった人のようで、皇孫でありながら中央で重んじられず、それを不満に持っていた。
・宇多天皇のご隣席の歌合わせに参加した時、「沖つ風ふけるの浦にたつ浪のなごりにさへや我は沈まぬ(大和物語)」と詠んでいる。解釈すると「私は伊勢に権守として、とばされたままになつていますが、いつまでこうしていなければならぬのでしょうか、私をもっと出世させて、中央に戻して下さい」、これを宇多天皇は側近に「はて、なんのことだろうか意味がわからない」と、とばけられた。この時の宗于の役職は伊勢の国司です。伊勢は天皇の祖である天照大神を祀る伊勢神宮がある。その太守である。ところが「我は沈まむ」と嘆いているのです。このような出世欲、自己中心者は、官吏としては向かないものである。官吏の在り方を示したかったのである。



＜学習グループのご紹介＞

すみれコーラス

♪ 歌は健康の友そして心の栄養 ♪

コロナ禍を経てメンバーの入れ替わりもあり現在、会員はシニア世代を中心に13名。神浦澄子先生にご指導を頂き月に2回、第2・第4水曜日の午後、練習をしています。パワフルで、且つ、ユーモアあふれるご指導に、思わず笑いがあふれたり、瞬く間に時間が流れます。

練習曲も長崎の自然豊かな情景を歌った壮大な合唱曲、長崎のわらべ唄、又、なつかしい昭和歌謡等々。

そして今、アニメソングへのトライ！と、いろいろなジャンルに挑戦です。

「コーラスの練習に来た日の夜は、よく眠れるとよ」と会員さんがポツリひと言。

どうぞ一緒に歌いませんか!!

入会、お待ちしております。

学習グループ名	すみれコーラス (コーラス)
活動日時	第2、第4水曜日 午後1時30分～3時
メンバー	13名
講師	神浦澄子(こうのうらすみこ)さん
代表者 (連絡先)	中村春美さん (090-4519-1212)

